

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立佃中学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国 語	【4月】 令和6年度「学習力サポートテスト」の「標準スコアによるカテゴリー間の比較」によると、どの学年も「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が全国・区の平均よりも4.1%～5.0%低くなっている。 【10月】
数 学	【4月】 - 令和6年度「学習力サポートテスト」の平均正答率は、全国平均正答率をすべて上回っている。(1年:+3.2%, 2年:+5.3%, 3年:+8.5%) - 第1学年では、区平均を2.2%下回っており、特に図形の問題の正答率が区平均と比べても低い。 - 第2,3学年では、区平均をそれぞれ1.4%, 1.7%上回っているが、文字式や方程式の問題の正答率が他の問題と比べて低い。 【10月】
社 会	【4月】 - 令和6年度「学習力サポートテスト」の全体の正答率は全国平均を下回っている。特に「知識・技能」の問題の正答率が、学年が上がるにつれ、低くなっている。 - 点数の分布を見ると、1年生は上下の幅が広く、最も多いのが50点台となっている。3年生も最も多いのが50点台である。 【10月】
理 科	【4月】 - 令和6年度「学力サポートテスト」の全国平均正答率が下回っており、観点別に見ると2学年の「主体的に学習に取り組む態度」以外は全国平均を下回っている。 - 全国平均正答率と比べて特に低い領域がある。1学年は「物質・エネルギー」(-4.6%)、2学年は「生命」(-14.5%)、3学年は「地球」(-9.1%)となっている。 【10月】
英 語	【4月】 - 令和6年度「学習力サポートテスト」の平均正答率は、区の平均正答率を1年生は下回っており、2、3年生は上回っている。(1年:-2.8 2年:+0.7 3年: +3.9) 1年生では、「読む」領域の問題の正答率が下がっている。 2,3年生では、「書く」領域の問題の正答率が下がっている。 - 英語が苦手な生徒が、既習の単語や文法がわからず、授業中学習に取り組めないことがあった。 【10月】
体力向上	【4月】 - 全体的に運動嫌いな生徒が多く、課題に対して主体的に粘り強く取り組む生徒が少ない。反面、球技などの楽しめる活動に関しては、課題以外のところで楽しめる要素も見受けられる。 - 体力の全体的な低下が見られる。 【10月】

2 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	【4月】 令和7年度「学習力サポートテスト」の正答率が、令和6年度を上回るようにする。 【10月】	- 文法や語彙、古典に対する生徒の苦手意識を軽減するゲーム形式の授業を実施する。 - 文法の小テストを行い、知識の定着を図る。 - 漢字・語彙チェックノートを、課題として定期的に出し、学習を習慣づける。

数 学	【4月】 ・令和7年度「学習力サポートテスト」の正答率が、令和6年度を上回るようにする。 【10月】	・習熟度別少人数授業を行い、区講師と連携して机間指導を行い、個に応じた指導を充実させる。 ・生徒が主体的に学習に取り組めるように問題解決型の授業を多く取り入れたり、適切な場面でICT機器を活用させたりする。
社 会	【4月】 ・令和7年度「学習力サポートテスト」の正答率が、令和6年度を上回るようにする。 【10月】	・毎回の授業で効果的な振り返りを行う。 ・小テストを行い、知識の定着を図る。
理 科	【4月】 ・令和7年度「学習力サポートテスト」の正答率が、令和6年度を上回るようにする。 【10月】	・授業の振り返りを行い、学習内容を生徒が自分の言葉で説明できるようにする。 ・計算問題の演習を行う。
英 語	【4月】 ・令和7年度「学習力サポートテスト」の正答率が、令和6年度を上回るようにする。 【10月】	・習熟度別少人数授業を行い、区講師と連携して生徒の理解度を把握しながら個に応じた指導を充実させる。 ・生徒が主体的に学習に取り組めるようにICT機器などを活用して、理解を深める。
体力向上	【4月】 ・保健体育の授業が嫌いな生徒の比率を下げる。 ・振り返りや自分の課題に気づく・解決する姿勢を身につける。 【10月】	・保健の知識では、タブレットを活用しゲーム性のある内容で興味・関心を高め理解を深める。 ・実技では、自分自身の課題に対してどれくらいの改善が見られたかを評価できる内容や学習カードを作成するようにする。

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
取組	・数学科及び英語科では、よりきめ細やかな個に応じた指導の充実を図るため、習熟度別指導や少人数指導を行う。定期考査前は、個別最適な学びの実現を目指し、放課後補習教室を実施する。 ・単元の中で、個別最適な学びの時間と協働的な学びの時間をバランス良く取り入れ、両者の一体的な充実を図る。

探究的な学びの充実	
取組	・令和5年度から全教科等で取り組んでいるPBL（Problem/Project Based Learning）による実践的な研究を継続し、新しい時代を築く力として課題解決能力等を育成するため、授業検討を行う。 ・総合的な学習の時間では、生徒が主体的に課題解決に向かうことができるテーマ設定をするとともに、カリキュラムマネジメントのもと、十分な時間確保ができるようにする。 ・自己実現を図る力を育むため、総合的な学習の時間の学年のテーマを第1学年「探る（探求）」、第2学年「創る（創造）」、第3学年「発する（発信）」とし、各教科との関連を図りながら、体験活動を重視し、学校図書館やICT機器を効果的に活用して、探求課題の解決を図る学習を進める。

読解力の育成	
取組	・読書感想文コンクールやビブリオバトルやNIE教育（新聞作り）の取り組みを通して、考えることを文章にする機会を増やしていく。 ・各教科の中で、図書室を利用した授業を計画し、資料や文章を読み取り、学びを深める授業作りに取り組む。